

令和3年度 日南市立榎原中学校 学校関係者評価

【学校経営ビジョン】

学校の教育目標具現化に向けて教職員の資質向上を図り、保護者や地域社会と連携を深めながら子どもの知・徳・体バランスのとれた成長と、将来にわたってたくましく生きていく力を育む教育活動を推進する。

4（75%以上達成できている） 3（50～75%程度達成できている） 2（25～50%程度達成できている） 1（25%未満しか達成できていない）

評価項目	指標	評価指標	自己評価	努力事項	成果(○)・課題(●)及び改善策	総合評価	関係者評価	学校関係者コメント	成果(○)	課題(●)	要望など(※)	
感動する心、自他の命や人権を尊重する心、共生や寛容の心など豊かな人間性を育む。	1	全教育活動を通じた道徳教育の展開といのちの教育の充実	生徒	3.9	①道徳推進教師が、各研修会で得た内容を校内で共有するとともに、道徳の授業での生徒の様子を教師間で共有することで生徒一人一人の道徳性を培う指導を行う。 ②性教育を毎学期実施し、その内容を充実させることで、いのちを大切にすることを育む。	○全職員で道徳の授業を行うことができた。 ○性教育は学期に1回ずつ、計画通りに実施することができた。 ●道徳の研修を計画的に実施することができなかった。	3.7	3.5	◇指標1 ○ 道徳に対する認識が三者とも高く評価されている。			
			保護者	3.5								
			教師	3.6								
	2	人権・福祉教育、キャリア教育、平和教育、体験活動、ボランティア活動の推進	生徒	3.3	①福祉体験学習の実施や人権教育に関する取組により、お互いを認め合い尊重し合う心を育む。 ②キャリア通信の月2回の発行によりキャリア教育に対する保護者への啓発を図るとともに、キャリアコーナー「道しるべ」の充実により生徒の関心を高める。 ③12月の人権週間に合わせて「人権と平和について考える会」を実施する。	○福祉体験学習は、日程を変更して実施することができた。 ○キャリア通信は、定期的に発行することができた。 ○12月の参観日で、人権・平和に関する道徳の授業を実施した。 ●キャリアパスポートの活用を図ることが課題である。 ●七夕まつりが実施できなかった。 ○希望図書は計画的に購入ができた。 ●3年になると読書量が減ってしまう。 ●読書の習慣がない生徒の読書量をどのように増やすかが課題である。 ●学校図書司書の有効的な活用を図りたい。	3.3	3.1	◇指標2 ○ コロナ禍のなかで、いろいろと工夫して実施されていると思う。 ● キャリア教育に対する認識の低さが気になる。			
			保護者	3.2								
			教師	3.5								
	3	読書に親しむ生活環境づくり	生徒	3.6	①朝読書の時間を活用し、生徒一人あたり年間10冊以上の本を読むことを目標とする。 ②学習委員会、PTA学習部と連携して、「うちどく」や「おすすめ本」を広く募り、読書意欲が高まるような図書を購入を行う。 ③学校図書司書と連携し、図書室内の整備を行う。	○どの教科においても、導入とまとめの時間が工夫がなされていた。 ●教科によって、基本話型の活用が難しいことがあった。 ●立腰指導には常時指導が必要である。	3.3	3.1	◇指標3 ● 年間10冊以上の目標は少ない。中学生であれば、1週間で1冊でもよいのではないかと。 ● 保護者の評価が低いのは、家庭での読書量が少ないからなのか。 ※ 引き続きいろいろな取組をして、読書意欲が高まることを期待したい。			
			保護者	3.0								
			教師	3.3								
	「わかる」、実践できる授業実践により、学び楽しさや進んで学ぼうとする意欲を育てる。	4	基礎基本の定着と思考力・表現力の向上	生徒	3.8	①立腰指導、基本話型の活用、思考力・表現力の向上を図る手立て等による授業改善を小中連携して行う。 ②榎原中授業スタイルを継続し、つながりのある授業を意識して導入とまとめの時間の工夫を全職員で行う。	○どの教科においても、タブレットを活用した授業ができるようになった。 ●一人1授業が計画通りに実施できなかった。	3.4	3.3	◇指標5 ※ タブレットを使った授業を参観したい。		
				保護者	3.1							
				教師	3.4							
5		同僚性を活かし、教職員の指導力並びに人間力の向上を図る研修の充実	生徒	3.0	①職員研修で計画的なICT活用研修を行い、職員間の共通理解を図る。 ②一人1授業研を通して各自の授業力の向上を図る。	○定期的な職員研修を実施し、事実の共有と共通理解を図ることができた。 ●一人1授業が計画通りに実施できなかった。	3.0	3	◇指標7 ○ 生徒の一生懸命さを感じる。			
			保護者	3.0								
			教師	3								
6		個に応じた学習支援体制(個別指導)の整備及びキャリア教育の推進	生徒	3.5	①配慮を要する生徒について、全職員で共通理解し、困り感のある生徒への個別的な学習の場の設定と適切な指導・助言を行う。 ②「4×4のチェックポイント」を意識した授業を構築し、生徒が達成感を味わい、生涯にわたって学び続けようとする姿勢を育てる。	○定期的な職員研修を実施し、事実の共有と共通理解を図ることができた。 ●進路希望の実現のための指導や助言が必要である。 ●各教科で工夫されている取組を、全職員で共有する機会がなかった。	3.4	3	◇指標8 ○ 成功体験で自信をつけさせることで、次にチャレンジする生徒が育つと思う。 ● 生徒結果のばらつきが気になる。			
			保護者	3.1								
			教師	3.6								
7		深める時間や確かめる時間を生かした自ら学ぶ意欲の向上	生徒	3.4	①日南チャレンジの利用や活用問題を解かせることで思考力・表現力の向上を図る。	○各教科で深める時間の活用を図ることができた。 ●日南チャレンジは市教委の中止に伴い、実施しなかった。	3.0	2.8	◇指標9 ○ 生徒の積極性を評価したい。 ※ 運動会等の学校行事や中体連を見られなかったのが残念だった。			
			保護者	2.6								
			教師	2.6								
8	疑問をもち探究して解決しようとする姿勢の育成	生徒	3.1	①全ての教育活動を通して、生徒それぞれに成功体験を味わわせ、自信をつけさせることで学ぶ楽しさを知り、様々なことにチャレンジできる生徒を育てる。 ②身のまわりのあらゆる事象に対して「なぜ」という疑問をもつことの大切さに気付かせ、日頃から様々なことを考える習慣を身につけさせる。	○運動会や文化祭を通して、生徒一人一人が成長することができた。 ●生徒が自ら課題を見つけて問題解決に取り組むための手立てが不十分だった。	3.3	3.3	◇指標10 ● 親にも教師にも相談できない生徒に対しての対策が必要である。 ※ 性教育はしっかりと教えてほしい。学校の授業でどのように指導しているのか、保護者も参観できるとよい。				
		保護者	3.3									
		教師	3.4									
心身の健康増進と体力の向上を図る。	9	生徒会活動の充実	生徒	3.5	①生徒会活動の目的や意義を理解させ、執行部を中心に課題意識をもって取り組ませよう指導する。 ②生徒委員会や生徒会掲示板の活用、専門委員会の活動などを通して、全校生徒が積極的に生徒会活動に参加できるようにする。	○計画されている活動については一人一人がよく取り組んでいた。 ●自発的に進んで活動するような主体的な取組がなかった。	3.5	3.4	◇指標11 ● 親にも教師にも相談できない生徒に対しての対策が必要である。 ※ 性教育はしっかりと教えてほしい。学校の授業でどのように指導しているのか、保護者も参観できるとよい。			
			保護者	3.5								
			教師	3.6								
	10	体育的行事や部活動を通じた体力の向上	生徒	3.6	①体育的行事や体育の授業を通して、サーキットトレーニングを取り入れ、基礎体力向上と体力づくりの優良校受賞をめざし、意欲的に活動させる。 ②部活動の充実を図り、体力の向上を目指す。	○体育の授業ではオンライン授業を実施するなど工夫がみられた。 ●女子の運動部活動について検討が必要である。	3.5	3.4	◇指標12 ※ 偏食をなくすためには、生徒と保護者が話し合うことが望ましい。			
			保護者	3.5								
			教師	3.4								
	11	教育相談の充実や食育・性教育・安全教育の推進	生徒	3.1	①教育相談の時間を各学期1回、各2時間確保し、全校生徒を対象に確実に実施する。 ②学校栄養職員と連携して各学期に1回食育活動を行い、食事のマナーや知識を学ぶとともに、食への関心を高める。 ③学級担任と養護教諭とが連携して計画的に性教育の授業を行う。	○食育や性教育については、計画通りに実施することができた。 ●生徒自身が問題意識をもって相談できるような工夫が必要である。	3.1	2.9	◇指標13 ○ コロナ禍のなかで、生徒はよく頑張っていると思う。			
			保護者	2.9								
			教師	3.7								
	12	「求食」による感謝の心の育成	生徒	3.3	①給食感謝集会や弁当の日を通して、食物を大切にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心を育成する。	○給食の時間に、日南の食材に関する情報を放送することができた。 ●弁当の日は、3月に実施を予定している。	3.3	3.1	◇指標14に関して ※ 榎原小中ならではの教育に期待したい。			
			保護者	3.2								
			教師	3.4								
保護者や地域社会と連携し、地域に根ざした教育を推進する。	13	総合的な学習の時間の充実	生徒	3.9	①各学年のテーマに沿った体験活動を通して、自分の将来に向けての考えを深めさせる。	○職場体験学習は、時期をずらして実施することができた。 ●1年のふるさと学など、コロナ禍で実施できなかった活動があった。	3.7	3.5	◇指標15に関して ※ コロナ禍で行事が中止になったことが残念だった。			
			保護者	3.4								
			教師	3.9								
	14	小中一貫教育・連携教育の充実・推進	生徒	3.4	①知・徳・体の各班の取組を通して、今まで以上に小中の連携を図る。	○運動会や持久走大会は、協力して取り組むことができた。 ●小中のいずれの研究授業も相互に参観することができなかった。	3.4	3.4	◇指標16に関して ※ SNSは個人による情報発信なので、たとえばICTを活用した情報提供と項目を変えた方がよい。			
			保護者	3.4								
			教師	3.3								
	15	通信等を活用した積極的な情報発信	生徒	3.1	①学級通信を定期的に発行する。 ②学校たよりやホームページを定期的に更新し、学校の取組や生徒の活動を保護者や地域に発信する。 ③学校の行事等に関するプレスリリースに努める。	○学級通信はどの学年も毎週発行し、保護者からの信頼も得ていた。 ●プレスリリースを積極的に活用しなかった。	3.4	3.4	◇指標17に関して ※ 2以下の評価がなかった。			
			保護者	3.1								
			教師	3.7								
	16	地域行事への積極的参画	生徒	3.8	①学校支援地域コーディネーターに協力を依頼し、地域の人材を活用した教育活動を実施する。 ②地区運動会や敬老会等の地域行事への生徒の積極的な参加をうながす。	○地区の方に来校してもらい、職業講話を実施することができた。 ○個人、団体で敬老会に参加することができた。 ●限られた行事でしかコーディネーターと連携することができなかった。	3.5	3.4				
			保護者	3.4								
			教師	3.4								
17	SNSを活用した積極的な情報提供	生徒	3.8	①榎原中安心メールを利用して、各家庭に緊急時の対応などの連絡を行う。 ②学校のホームページの積極的な活用を図る。	○学校あんしんメールは積極的に活用することができた。 ●ホームページの更新を定期的に行うことができなかった。	3.8	3.5					
		保護者	3.8									
		教師	3.8									
榎原中に入学してよかったか			生徒	3.9								
			保護者	3.9								
			教師	3.9								